

事後評価報告書
(日本-中国(NSFC)研究交流)

1. 研究課題名: 新規触媒の開発に立脚したバイオマス・廃棄物からのバイオ燃料合成プロセス

2. 研究代表者名:

日本側: 富山大学大学院工学系分子反応工学分野 教授 椿 範立

相手側: Chinese Academy of Sciences, Guangzhou Institute of Energy Conversion
Professor Tiejun Wang

3. 総合評価: A

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

日本の触媒技術と中国の大型装置の結合で、実用的なバイオマスガス化炉のノウハウを取得できたことは大きな成果であり、中国南部の地域経済への貢献も期待できるが、中国のエネルギー、環境問題への貢献をもう少し明確にして欲しかった。国内の有力な研究者らで日本側参加者を構成し、ほぼ全員が相手国のワークショップに参加している。相手側研究者も多岐にわたり、研究分野間の国際交流がなされ、その成果として多くの論文発表がなされた。相手国側との共著論文が5編出版されたことは高く評価できる。今後は研究がガス化炉の解析などに展開することが望ましい。

(2)交流活動の評価について

相手国側から日本に長期(58~89日)に研究者を複数名受け入れて国内で研究を行わせており、若手研究者育成のための重要な成果と考えられる。日本側は多くの教授クラスが参加しているにもかかわらず、セミナーを数多く開き多数の参加者(学生等を含んでいると思われる)があった。研究室の学生などにも国際的な活動の重要性を周知でき、本事業が有効に使われたものと判断できる。但し、双方共に研究への学生の参加者が少なかったことは反省材料である。また、多くの日本側参加研究室があったので、研究代表者研究室以外にも研究者を招聘したほうが好ましかった。

(3)その他

国際研究交流の目的をきちんと把握し、日本側参加者の規模も予算などから考えると非常に適切な、よいプロジェクトであったと思われる。